

(書式1)【候補者用】

① 立候補者の 姓名と所属	藤井 健吉 (ふじい けんきち) 花王株式会社研究開発部門研究主幹／研究戦略・企画部部長 (レギュラトリーサイエンス担当)
② 立候補の理由と 抱負 (400 字程度)	<p>私たちは、狩猟採種時代から大航海時代の海上保険やグラントの生命比較表を経て現代に至るまで、「守りたい価値」と「脅かすもの」の組み合わせの数だけ多様なリスクを発見してきました。私にとってリスク学会は、多様多彩なリスク事象に関わる人たちが、そのリスクを評価し・管理方法を設計し・コミュニケーションし、疑問を出し合う学際的な対話の場です。私の場合、「よきモノづくり」の実学領域のリスク評価責任者として、製品安全、化学物質管理・サステナビリティなどの国際諸課題に直面してきました。課題に応じた新たなリスク評価指標の選択、時代に応じた基準値の刷新、国際的なコンセンサス形成など、リスク学が必要とされる実学現場は多数あり、人財と現場を繋ぐことも重要です。</p> <p>学際的リスク学の諸テーマを網羅する当学会には、分野横断的に諸賢が集い、世代を超えて知見を集積する良さがあります。理事会を駆動する一員として、課題毎の学際的協働、リスク学高度人財の連携、解決志向性の協働研究の場づくりに向け、役割を担っていければと思います。</p>
② 本学会における 活動歴	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本リスク学会理事 (2018～、国際委員長、安全工学シンポジウム担当)。 2. リスク学事典 編集委員 (全項通読査読担当) および「1-11. SDGs と ESG」、「6-13, 14 工業化学物質のリスク規制(1)/(2)」、他執筆。 3. レギュラトリーサイエンス Task Group 発起人・第 1～4 期 (2013-25) 共同代表、次期リスク学事典に関する Task Group 共同代表。 4. COVID-19 パンデミックへの学会理事会対応 (「環境感染のウイルス除染ガイドランス」等のとりまとめ、メディア対応)。 5. 安全工学シンポジウム実行委員 (リスク学会共催/日本学術会議安全安心リスク分科会主催)。「OS 学際的リスク学分野の体系化～リスク学事典 (2019)」、「OS 化学物質管理が創る安全・安心な社会—SAICM2020 (2020-21)」、「PD リスク学の歴史・展開・社会実装 (2022)」、「OSCOVID-19 リスクガバナンスの教訓～レジリエントな社会制度の再設計 (2023)」のリスク学会企画立案／座長。 6. 学会年次大会実行委員 (2019, 2021)、年次大会企画セッション座長および発表「規制ガバナンスの核心-根拠に基づく意思決定プロセスの事例と潮流 (2014)」、「化学物質管理のレギュラトリーサイエンス-実践的研究 (2015)」、「化学物質のリスク評価・管理における多面的な役割-新たなリスク研究の方向性と可能性- (2016)」、「日本水環境学会共同企画セッション水系感染リスク研究の最先端 (2017)」、「化学物質のリスク評価・管理 (2018)」、「化学物質・資源管理 (2019)」、「新型コロナウイルス感染症をめぐるレギュラトリーサイエンス (2020)」、「次期リスク学事典について考える (2021)」、「リスク分析・評価方法 (2023)」、他

	<p>7. 学会誌リスク学研究に受理された主な論文（共著含む）；</p> <ul style="list-style-type: none"> 「レギュラトリーサイエンス(RS) のもつ解決志向性とリスク学の親和性 ～薬事分野・食品安全分野・化学物質管理分野の事例分析からの示唆～. 2017;27(1).」、「化学物質のリスクを中心としたレギュラトリーサイエンスの事例解析. 2016;26(1)」、「水中の健康関連微生物リスク研究の歴史的変遷と最先端. 2018;27(2)」、「行政の施策とリスク学の接点. 2020;29(3)」、「企画セッション開催報告 新型コロナウイルス感染症をめぐるレギュラトリーサイエンス. 2021;30(4)」、「ウイルス感染症対策としての CO2 濃度の利用にむけた値の解釈について. 2021;30(4)」、「接触感染経路のリスク制御に向けた新型コロナウイルス除染機序の科学的基盤. 2020;30(1)」、「リスク学事典編纂の現代的意義を振り返る. 2021;30(3)」、「手指消毒による感染リスク低減と QOL 向上の両立—塩化ベンザルコニウムとエタノールの組合せによるウイルス不活化効果. 2022;32(1)」、「企画セッション開催報告 次期リスク学事典について考える. 2022;31(3)」、「市販エタノール消毒剤の SARS-CoV-2 を含む複数の微生物に対する消毒効果. 2023;32(2)」、「補足：市販手指消毒剤の 15 秒暴露によるウイルス不活化効果. 2023;32(2)」、「ウイルス伝達経路ごとの SARS-CoV-2 感染リスク評価と対策有効性評価. 2024;33(3)」、「学際的リスク評価の実学的側面. 2023;33(2)」、他 <p>8. リスク研究学会奨励賞（2015）、リスク学会グッドプラクティス賞「大規模集会（Mass Gathering Event）を対象とした解決志向リスク学の実践」（2021）、リスク学会認定リスクマネージャ（2018～）</p> <p>9. 令和 5 年度文部科学大臣表彰 科学技術賞（科学技術振興部門）「COVID-19 禍における大規模集会の開催に関する貢献」 リスク学会員有志による共同受賞</p>
④ 研究歴・職歴等（100 字以内）	<p>北大院医修了、博士(医学). 北大院医助教、花王安全性科学研戦略室長を経て現職. 米国洗剤工業会サステナビリティ委員、アセアン化粧品工業会 Vice President、SIP サーキュラーエコノミーシステムの構築ピアレビュー委員長、日本学術会議連携会員.</p>

（書式 2）【推薦者用】

① 推薦する候補者名	藤井 健吉氏
② 推薦者の姓名と所属	村上 道夫（大阪大学感染症総合教育研究拠点社会技術ユニット教授）
③ 推薦理由（400 字程度）	<p>藤井氏は、リスク評価者としての専門性はもちろんのこと、高い実務力とコミュニケーション力からリーダーシップを発揮しています。著者としてリスク学研究に広範なリスク課題に対する成果を多数発表している他、年次大会の実行委員や座長として活躍されてきました。さらに、レギュラトリーサイエンスタスクグループの発起人として本分野を牽引しており、リスク研究学会奨励賞やリスク学会グッドプラクティス賞の受賞歴が示すように、現代課題へのリスク学の実践と社会実装を進める第一人者です。また 2019 年に刊行された「リスク学事典」では、編集委員の一人としてすべての原稿に目を通すとともに、俯瞰的視野を持って学際的リスク学の体系化に大きく貢献されました。2018 年より日本リスク学会の理事を務め、国際委員長として国際動向についての課題提示と日本のプレゼンスの発信を進めています。共催する安全工学シンポジウムでの企画担当もされており、日本リスク学会にとって他に代わる方のいない存在です。本学会の役員にふさわしく、自信をもって推薦いたします。</p>

① 推薦する候補者名	藤井 健吉氏
② 推薦者の姓名と所属	蒲生 昌志（国立研究開発法人産業技術総合研究所 安全科学研究部門長）
③ 推薦理由 (400 字程度)	<p>藤井氏は、リスクアセッサーとして、化学物質分野を中心に、リスクから持続可能性まで幅広くリスク学の社会実装・レギュラトリーサイエンスの実践を行ってきた。世界各国の規制動向、社会の動向、関連学術の動向に極めて明るい。また、それらの背後にある論理構造の見極め、とるべき戦略のロジックの組み立ての的確さにはいつも感服させられている。日本リスク学会では、国際委員長、安全工学シンポジウム担当として、その視野の広さ、情報の豊富さ、ロジックの的確さから、理事会等での議論をリードする存在として活躍してきた。</p> <p>社会が大きく変化し、ますますリスク学が社会に必要されるようになっている昨今、日本リスク学会が目指すリスク学の社会実装のために、藤井氏の存在は貴重である。理事として引き続き一層の活躍を期待することから、ここに同氏を推薦するものである。</p>